

Ⅱ 調布八雲苑

第1 総括

1 安定的な施設運営と収支差額の確保

平成28年度は3年に一度の介護報酬の改定で幕を開けた平成27年度の影響を引きずらないように、特養部門とデイサービス部門の利用率を維持し、高めることを主眼として取り組んできた。

しかし、特養の入所が原則として要介護度3以上に限られ、一定の所得のある利用者の負担が2割になった影響は、経営の安定化を遅らせる大きな要因となった。

さらに、通所介護事業では、介護予防・日常生活支援総合事業が昨年10月から開始されたことや、民間事業者との競合と利用控えの影響から利用率の低下に拍車がかかる結果となったものの、平成28年度の決算状況では、調布八雲苑総体で約500万円の収支差額を確保できた。

利用者の状況をみると、基幹事業である特養部門では、長期入院や入院先での死亡により18人が退所するという、入れ替わりの多い一年となった。なお、今後数年は利用者の重度化と高齢化が進む影響から、多くの入・退所者がでることが想定される。

ショートステイは、利用者の費用負担が増加したことの影響もあり、利用率85.3%となるなど、ショートステイ事業の継続に黄信号を灯す結果となった。

通所介護部門では、新規利用者の獲得に注力する一方で、介護保険制度の改正に伴う利用控え等の影響が拡大傾向にあり、利用者一人当りの利用日数が減少するなど経営目標率には未達となった。

また、収支においても加算や保険対象外での収入増が期待できず、支出削減に努めるなど苦戦を強いられた。

特に、本年度の大きな柱となった「介護予防・日常生活支援総合事業の開始」、「地域密着型サービスの再編」は、細部にわたる十分な理解と説明が求められており、運営推進会議の設置や新規書類の作成及び説明、同意等、専門的な役割が増幅したことにより、サービス体制を確保することも一層と困難になってきた。

なお、地域包括支援センター及び居宅介護支援事業部門においても、介護予防ケアマネジメントの理解と実践力が要求され、予防給付認定者とチェックリスト対象者との振り分け等、繊細な個別対応の重要性が高まった。

このことから、高齢者在宅サービスセンター三部門においては、制度に遵守した良質なサービスを提供するため、専門性のあるマンパワーの確保も課題の一つとなったところでもあったが、本年度は、各専門職の協働により、相談からサービスまで切れ目なく提供できるよう努めることができた。

サテライト施設である神代の杜に対しては、調布八雲苑の栄養士を兼務させることを基本に人的支援を行ってきた。

2 利用者が安心できる施設環境

平成28年7月に神奈川県相模原市の障害者施設で発生した傷害事件を踏まえ、福祉施設の防犯対策が全国的に求められた。

従来、高齢者福祉施設では、利用者の施設内での事故や送迎中の事故を防止する取り組みを行うことを基本とし、利用者や利用者の家族が安心して施設を利用できる取り組みを行ってきたが、今回の事件をきっかけに外部からの不審者侵入ということについても注意を払わなければならなくなった。

そこで、国が不審者対策に対する補助制度を緊急に設けたこともあり、当施設も補助制度を活用して防犯カメラの設置工事を行った。

また、間もなく開設して30年を迎える施設であるため様々な個所で不具合が見え始めており、給排水、空調、電気、厨房等の設備関係は定期点検を怠ることなく、必要な修繕を行うとともに、災害時における要援護者等対応マニュアルを活用した、非常時の対策をさらに高める取り組みを行った。

3 人材の確保と職員の育成

福祉施設で働く人材、特に介護職員の確保については法人本部と連携し、関係機関やホームページ、新聞折り込み等で人材の確保に努めた。近年、利用者の重度化と高齢化が進み、従来的人员では適正な介護が行えないような事態も生じており、職員が確保できない場合は派遣職員の活用等を視野に入れていたが、幸いにも派遣に頼らずに職員の雇用の安定化を図ることができたことは大きな成果といえる。

また、職員の育成では、関係機関が主催する外部研修等必要な研修の受講を積極的に薦めるとともに、研修で習得した内容については、職場内でフィードバックし、関係職員間で知識の共有ができるよう努めるとともに、職場内研修(OJT)を一層充実させた。

4 地域との連携

相互防災応援協定に基づく八雲台自治会との合同防災訓練を年2回実施した。

内容としては、第1部が夜間の火災発生を想定した訓練であり、第2部ではAEDの使用方法及び火災のメカニズムに関する勉強会など、調布消防署国領出張所職員の指導のもとに学び、自治会の方々からは、貴重な体験ができたとの感想があった。

また、恒例の夏まつりは、7月31日(日)に実施し、利用者、その家族、また近隣の住民など300人近い方の参加があり、前年度に引き続き模擬店やゲームコーナーなどが好評であった。

その他、地域包括支援センターを中心に、地域ケア会議の開催やわくわく広場

など地域行事、地区協議会等に積極的に参加し、地域との連携、交流を図ってきた。

5 福祉サービス第三者評価の受審

平成28年度においても福祉課を中心に、提供するサービスを客観的に評価するため、福祉サービス第三者評価を受けた。

評価に当たっては利用者アンケート、職員へのヒアリング等を行ったが、昨年度と同様に概ね適正なサービスが提供されているとの評価であった。

評価を受ける一方で、更なる改善点も指摘されているので、サービスの向上が図れるよう努力したい。

第2 経営実績

1 目標値に対する実績

目標値に対する実績は、次のとおりである。

(単位：%)

事業人		目標値	平成28年度実績	平成27年度実績
介護老人福祉施設 (特別養護老人ホーム) 利用率		97	95.2	96.3
短期入所生活介護 (ショートステイ) 利用率		95	85.3	82.2
通所 介護 事業	通常規模型通所介護 利用率	87	77.4	86.7
	認知症対応型通所介護 利用率	83	78.8	78.5
居宅介護支援事業 ケアプラン作成		40件(月)	39.4(件)	38.4(件)

2 人件費率

(単位：%)

区分	平成28年度実績	平成27年度実績
調布八雲苑全体	67.0	65.3

※ 事業活動計算書から算出

第3 課別事業報告

1 管理課

(1) 重点事項への取組

ア 経営の安定

利用率の低下が懸念される中、更なるコスト意識を持って事業に取り組むよう、毎月開催する職員会議において、前月分の利用率や収支状況を報告している。

職員全体が現状を把握し理解することにより、経営目標達成に意欲を高めるとともに、収支差額の確保に向けた取り組みを行った。

イ 人材の確保と定着

職員の欠員を生じさせることのないよう、各種学校、ハローワーク・ホームページ、ナースバンク、就職相談会等を活用して人材の確保に努めた。

その結果、看護師と介護職を採用することができ、派遣職員を解消することができた。

引き続き職員の働きやすい職場環境作りを行い、欠員を生じさせることのないよう一層の努力を図っていく。

平成28年度の正規職員の退職者は、3人（介護職員2人、生活相談員1人）であった。

ウ 各種対策委員会の実施と施設内研修の充実

安全衛生委員会（12回）、感染症等対策委員会（4回）や事故防止対策委員会（4回）を実施した。また、年間の施設内研修計画を立て各委員会主催の研修会を5回、各課主催の研修を3回、合計8回実施することができた。

内容については、①職場におけるストレスマネジメント②高齢者福祉施設における震災時対応訓練③事故再発防止検討会④福祉車両の使い方及び集団移送の留意点⑤生活習慣病予防のための健康体操⑥介護事業者向けワンポイントセミナー⑦高齢者施設における感染症危機管理⑧感染リスクのある嘔吐物の処理の仕方、である。

特に、インフルエンザ・ノロウイルス等が猛威を振るう中、感染症には細心の注意を払い、12月1日から3月末までは面会を1階ロビーで行うことにより特養ではインフルエンザの感染は避けることができた。

エ 神代の杜との連携

開設して4年が経過した神代の杜は、調布八雲苑のサテライト型の施設であることから、様々な分野で連携・協力して業務を行うとともに、栄養士の兼務等により円滑な事業の実施と経営の安定化に向け、本体施設としての役割を果たした。

また、介護職員の欠員等には相互に応援体制が取れるよう、引き続き協力

していく。

オ 給食の状況

検食日誌の内容や給食委員会が出された意見に対し、調理委託業者や各職種と連携をとり、改善していった。また、季節感や旬の物を取り入れ、利用者に喜んで召し上がっていただけるよう努めた。今後も安全で美味しい食事の提供を目標に、施設側と委託業者で協力していく必要がある。

特養の利用者においては毎月のカンファレンス等含め、一人ひとりに細やかな食事提供の対応に努めた。なお、給食の主な状況は次のとおりである。

- (ア) 食種の割合は、主食ではご飯13%、柔らかご飯27%、お粥52%、ミキサー粥8%、副食では、常食20%、粗刻み8%、刻み32%、極刻み28%、ミキサー12%となり、お粥の増加が目立った。
- (イ) リクエストメニュー8回・バイキング4回・行事食18回・ホーム喫茶6回を実施し、食事を楽しんでもらうようにした。
- (ウ) デイサービスの利用者には、年間の行事予定に沿って職員と相談しながら、行事に合った食事やおやつを提供した。
- (エ) 利用者の声や検食時の意見、感想、味のチェックなど、その日の献立に対して委託業者と話し合い、調理に反映するよう努めた。
- (オ) 栄養ケアマネジメントは、毎月の体重測定結果と摂食状況等を看護職員・ケアマネージャー・介護職員・栄養士がカンファレンスを行い、利用者の日々の変化に対応しながら進めた。

特養（介護老人福祉施設。以下同じ。）利用者食数

月	朝食	昼食	夕食	月	朝食	昼食	夕食
4	1,699	1,699	1,700	10	1,747	1,741	1,748
5	1,721	1,719	1,722	11	1,652	1,658	1,657
6	1,696	1,698	1,701	12	1,619	1,623	1,623
7	1,700	1,706	1,704	1	1,760	1,761	1,761
8	1,735	1,740	1,739	2	1,610	1,614	1,612
9	1,731	1,728	1,731	3	1,811	1,810	1,810
				計	20,481	20,497	20,508

ショート（短期入所生活介護。以下同じ。）利用者食数

月	朝食	昼食	夕食	月	朝食	昼食	夕食
4	98	88	100	10	130	122	128
5	113	93	112	11	94	87	96
6	92	77	90	12	77	67	78

7	103	93	105	1	62	54	62
8	84	76	84	2	73	67	73
9	96	89	98	3	58	51	62
				計	1,080	964	1,088

行事食献立一覧（特＝特養、シ＝ショート、デ＝デイサービス）

月日	行事人	課人	献立内容
4月4日	リクエストメニュー	特・シ・デ	チャーハン、春巻き、リカメスープ、杏仁豆腐
6日	リクエストメニュー	特・シ・デ	山菜ご飯、魚の味噌漬け焼き、さつま芋煮、他
5月5日	こどもの日	特・シ	いなり寿司、やわらかチキン、若竹煮、そうめん汁
19日	ホーム喫茶	特・シ	苺ショート、スフレチーズケーキ、抹茶饅頭、飲み物三種
6月2日	リクエストメニュー	特・シ・デ	焼うどん、大学芋、昆布茶和え、玉子豆腐の澄まし
30日	ハイキング	特・シ	おやつバイキング（ケーキ3種、水羊羹、くず饅頭他）
7月7日	七夕	特・シ・デ	七夕そうめん、天ぷら、卵豆腐、きらきらゼリー
21日	ホーム喫茶	特・シ	白桃ケーキ、抹茶ミルクレープ、くず桜、他飲み物三種
30日	土用の丑	特・シ・デ	うなぎ散らし、がんもとぜんまいの煮物、他
31日	夏祭り	特・シ	焼きそば、から揚げポテト、だご汁等
8月13日	リクエストメニュー	特・シ・デ	天ぷら、高野豆腐含め煮、切干大根の辛子酢
9月15日	ホーム喫茶	特・シ	モグラ、月ゆめうさぎ、栗どらやき、他飲み物3種
13～15日	敬老週間	デ	松花堂弁当、巨峰、味噌汁
18日	敬老祝い	特・シ	赤飯、お刺身、天ぷら、炊き合わせ、ねりきり他
22日	お月見	特・シ	おやつにうさぎまんじゅう。飾り用月見団子
26日	リクエストメニュー	特・シ・デ	メンチカツ、ぜんまいの煮物、春雨酢の物
10月3日	リクエストメニュー	特・シ・デ	栗ご飯、豆腐の五目あんかけ、蓮のきんぴら、他
27日	リクエストメニュー	特・シ・デ	カキフライ、湯豆腐、ポテトサラダ
28日	ハイキング	特・シ	手まり寿司、刺身、茶碗蒸し。お茶福豆、柿
11月17日	ホーム喫茶	特・シ	クレープケーキ、ティラミス、金時饅頭、他飲み物三種
12月4日	餅つき	特、シ	あんこ餅、からみ餅
24日	クリスマスメニュー	特・シ・デ	ピラフ、デミグラスハンバーグ、コンソメスープ、苺キザベリー
	おやつ	特・シ	ケーキ、アップルティー
26・27・28日	餅つき週間	デ	あんこ餅、からみ餅、漬物
31日	年越し	特・シ	年越しそば、天ぷら、蕪の酢の物、みかん
1月1日	元旦	特・シ	赤飯、おせち料理、雑煮、5点盛り、紅白饅頭
4～6日	お正月週間	デ	松花堂弁当、お澄まし、果物、おやつに甘酒
7日	七草	特・シ・デ	七草粥、えびしゅうまい、豆腐のくず煮、漬物
19日	ホーム喫茶	特・シ	苺のスフレケーキ、チョコケーキ、どら焼き、他飲み物三種
26日	リクエストメニュー	特・シ・デ	鯛めし、玉子の中華蒸し帆立あんかけ、他

2月3日	節分	特・シ・デ	散らし寿司、大豆とひじきの煮物、鯛つみれ汁、他
2月4日	ハイキング	特・シ	お刺身、手まり寿司、いなり、巻寿司、卵の花炒め他
3月3日	ひな祭り	特・シ・デ	桜寿司、鱈の菜種焼き、澄し汁、苺と白桃
	おやつ	特・シ・デ	三色花びら・甘酒(特・シ)、桜のクレープ(デ)
1月6日	ホーム喫茶	特・シ	苺チョコショートケーキ、フルーツケーキ、焼き桜餅、飲み物3種
2月9～31日	修了式	デ	松花堂弁当、味噌汁、苺、おやつにケーキ

カ 施設設備等の保守点検

開設して間もなく30年を迎える施設であることから、施設設備の修繕が頻発している。利用者が安全に安心して生活できる環境を維持するために、定期的に保守点検を行っているが、点検等で指摘のあった個所については、必要な修繕等を行った。

本年度は、設備等では、エレベーター作動油交換や空調設備修理を行うとともに、温水ボイラーや機械浴室等の修理、非常用照明装置の修理等を行い、利用者の日常生活の安全に努めた。

(2) 実績報告

ア 研修体系

体系別の研修状況は、次のとおりである。

なお、内容欄の数字は、「イ 研修の状況」の「No」を表している。

体系		内容	回数
一般研修	新任職員研修	3、5	2
	現任職員研修	6、15、16、32	4
	副主任研修	38	1
	主任研修		0
	課長研修	19	1
	施設長研修	14、22、34、46	4
専門研修	看護師研修	20	1
	栄養士研修	4、7、40	3
	介護職員研修	2、12、21、23、25、37、39、42	8
	機能訓練指導員研修	45	1
	地域包括職員研修	28、29、33、44	4
	介護支援専門員研修	24、26、27	3
	生活相談員研修		0
	事務職研修	9、31、41、49	4
特別研修	1、8、11、35、48	5	
派遣研修	13、17、47	3	
職場研修	10、18、30、36、43	5	
自己研修			
外部研修参加及び施設内研修開催合計			49

イ 研修の状況

研修参加者は223人、延べ参加人数は249人であった。

(単位：人)

No.	月 日	内 容	主 催	人数	延べ
1	4/19	認定調査員新規研修	調布市福祉健康部	1	1
2	4/24	かいごの学舎 in 清瀬 2016	かいごの学舎実行委員会	2	2
3	5/11・12	福祉職員職務階層別研修 (初任者研修)	東京都社会福祉協議会	1	2
4	5/26	特定給食施設栄養管理講習会	東京都多摩府中保健所	1	1
5	6/1・2	福祉職員職務階層別研修 (初任者研修)	東京都社会福祉協議会	1	2
6	6/4	メディカルケアサポートセミナー in 八王子 wellbeingの視点から褥瘡対策を考える	メディカルケアサポートセミナー事務局	2	2
7	6/10	特定給食施設栄養管理講習会	東京都多摩府中保健所	1	1
8	6/19	地域で倫理コンサルテーション	調布在宅ケアの輪	1	1
9	7/19	法人協時局セミナー	社会福祉法人協議会	1	1
10	7/20	労災をなくそう！・臨時職員の規程等について	施設内研修(管理課)	16	16
11	8/19	普通救命講習	調布消防署 調布市高齢者救急業務連絡協議会	8	8
12	9/10	メディカルケアサポートセミナー in 東京 チームで取り組む 褥瘡対策・感染対策	メディカルケアサポートセミナー事務局	1	1
13	9/30	腰痛予防	施設内研修(安全衛生委員会)	19	19
14	10/3	調布市福祉大会	調布市社会福祉協議会 共同募金調布地区協力会	1	1
15	10/11	東京都老人福祉施設等感染症対策指導者養成研修	東京都福祉保健局	1	1
16	10/5・24	高齢者施設における感染症予防講習会	東京都多摩府中保健所	2	2
17	10/24	不審者対応研修	施設内研修(事故防止対策委員会)	18	18
18	10/27	感染症予防対策手洗い研修	施設内研修(感染症等対策委員会)	31	31

No.	月 日	内 容	主 催	人数	延べ
19	11/8	特養介護施設従事者等による高齢者虐待防止 「研修支援セミナー」	公益財団法人東京 都福祉保健財 団	1	1
20	11/15	結核予防講演会	公益財団法人東京 都結核予防会	2	2
21	11/17・18	東京都認知症介護実践者研修	東京都福祉人材 センター	1	2
22	11/17	調布消防協働三団体視察研修会	調布消防協働三 団体事務局	1	1
23	11/7・ 12/5	高齢者福祉施設におけるサービスマナー研修会 【ベーシックコース】	東京都社会福祉 協議会	1	2
24	11/14・ 12/9 1/23 1/29・ 2/3・2/24	東京都介護支援専門員専門研修課程Ⅱ	東京都介護支援 専門員研究協議 会	1	6
25	11/15・16	第73回全国老人福祉施設大会（石川大会）	公益社団法人全 国老人福祉施設 協議会	1	2
26	11/16・ 11/30・ 1/29 2/26・ 3/4・3/11	東京都介護支援専門員専門研修課程Ⅱ	東京都介護支援 専門員研究協議 会	1	6
27	11/22・ 12/13・14 1/17・18	神奈川県介護支援専門員専門研修課程Ⅱ 実務経験者向け更新研修	川崎市社会福祉 協議会	1	5
28	11/30	東京都認知症介護実践リーダー研修 シンポジウム	東京都社会福祉 協議会	1	1
29	12/17・18	認知症初期集中支援チーム員研修会	国立長寿医療研 究センター	1	2
30	12/28	認知症ケア、サービスマナーについて	施設内研修（福祉 課）	30	30
31	1/11・12	社会福祉法人・施設会計実務研修会「会計決算実務研 修会」	東京都社会福祉 協議会	3	6
32	1/16	高齢者福祉施設における中堅職員のための能力開発 研修会	東京都社会福祉 協議会東京都高 齢者福祉施設協 議会	1	2
33	1/17・18	東京都地域包括支援センター職員研修	公益財団法人東京 都福祉保健財 団	1	2
34	1/24・25	全国老人福祉施設研究会議 長崎会議	公益社団法人全 国老人福祉施設 協議会	1	2
35	1/30	普通救命講習	調布消防署 調布市高齢者救 急業務連絡協議 会	5	5

No.	月 日	内 容	主 催	人数	延べ
36	2/8	高齢者虐待防止研修	施設内研修（福祉課）	13	13
37	2/13	東京都認知症介護基礎研修	東京都社会福祉協議会	1	1
38	2/13	権利擁護・虐待防止セミナー	全国社会福祉協議会	1	1
39	2/14	東京都認知症介護基礎研修	東京都社会福祉協議会	1	1
40	2/22	栄養管理講習会	東京都多摩府中保健所	2	2
41	2/24	労働関係法令（労務管理）に関する研修会	東京都社会福祉協議会	2	2
42	2/27	東京都個別ケア研修	一般社団法人日本ユニットケア推進センター	1	1
43	2/27	感染症予防DVD研修	施設内研修（感染症等対策委員会）	18	18
44	2/28	高齢者虐待防止・対応のための研修会	社会福祉法人東北福祉会	1	1
45	3/2	スキンケアの知識とポジショニングの技術を学ぶ研修会	東京都高齢者福祉施設協議会	1	1
46	3/10	東京都社会福祉協議会 社会福祉法人協議会総会	東京都社会福祉協議会	1	1
47	3/15	事例から学ぶ家族対応	施設内研修（事故防止対策委員会）	16	16
48	3/17	排泄委員のための「高齢者に必要な栄養管理とチームで取組む排泄ケア」	ユニ・チャーム株式会社 ネスレヘルスサイエンスカンパニー	3	3
49	3/16	介護職員処遇改善加算に係る研修会	調布市福祉健康部高齢者支援室 介護保険担当	1	1
研修参加人数合計 223 人、述べ参加人数合計 249 人					

ウ ボランティア等の状況

年間の活動延べ人数は 2,281 人で、平成 27 年度の 2,481 人に比べ 200 人減少している。ボランティアの高齢化が進むとともに、活動日数が制限される傾向はみられるが、新規登録者も増えつつあるので、引き続き PR に努めたい。

(単位：人)

活動団体・内容等	活 動 先	延べ人数
----------	-------	------

		特養	デイ	施設全体	
クラブ・技術指導等	手 芸	45	0	0	45
	書 道	43	99	0	142
	編み物の会	0	45	0	45
	籐細工	0	96	0	96
	革細工	0	91	0	91
	陶 芸	0	51	0	51
	絵 画	4	0	0	4
全般・諸活動	リネン類整理	977	0	0	977
	傾聴	31	0	0	31
	歌・朗読・紙芝居	74	28	0	102
	鍼灸・マッサージ	6	0	0	6
	ダンス・リズム体操	16	0	0	16
	諸活動補助等	0	473	0	473
	音楽・演奏	12	12	0	24
	調布市立柏野小学校	0	0	17	17
美化中庭	中庭草取り	0	0	50	50
行事等	夏まつり	0	0	31	31
	ホーム喫茶	7	12	0	19
	その他行事	51	27	0	78
合 計		1,266	934	98	2,298

エ 実習生の受け入れ状況

年間の受け入れ延べ人数は246人で、前年度の172人に比べ74人増加した。特に、教員免許取得希望者の介護等体験が57人増加している。

(単位：人)

学 校 人 等	目 的	実 習 先			延 べ 実習者数
		特養	デイ	支援	
多摩職業能力開発センター府中校	実務者研修資格取得	8	8	0	16
上智社会福祉専門学校	介護実習	24	0	0	24
杏林大学医学部付属看護専門学校	在宅看護論実習・老年看護実習	0	26	9	35
杏林大学保健学部看護学科	公衆衛生・看護学実習	16	0	0	16
京王バス株式会社	体験研修	0	14	0	14

東京都社会福祉協議会介護等体験	体験研修（教員免許）	35	90	0	125
調布市立調布中学校	職場体験	10	0	0	10
少年友の会	職場体験	6	0	0	6
実習生合計					246

2 福祉課

(1) 重点事項への取組

ア 利用者の重度化に対応したケアの推進

平成28年4月は、1人の退所、5月には3人の退所者があった。利用者の長期入院や入院先での死亡により、平成28年度は計18人と近年になく退所者が多かった。

また、利用者の平均要介護度は4.3であり、利用者の医療的ニーズを見逃さないケアと、BPSD（認知症の行動・心理症状）への適切な対応がますます重要になっている。利用者の重度化の傾向は変わらない状況の中で、ケア会議や研修報告会を定期的に行い、専門医師・介護職員・看護職員・機能訓練指導員・管理栄養士等が連携を進めながら得られた知識の共有を図った。

インフルエンザなどの感染症対策には流行前から周辺地域の感染情報に注意し家族面会の場所をロビーにするなど感染症対策を行うことができた。

イ 介護と医療との連携、緊急時の対応及び看取りケアの実践

利用者の重度化に伴い、通院や入退院時の個別相談や、特養家族会の場を活用し、「救急車・救急搬送に伴う延命処置の承諾書（お願い）」を引き続き行った。なお、看取りケアは行わなかった。

ウ 各種対策委員会の実施と施設内研修の充実

感染症等対策委員会では、インフルエンザやノロウイルス等の対策は流行前から研修や流行情報の共有を行うことが出来た。

事故防止対策委員会では平成26年2月からIT企業と協力して事故の分析を行うことで事故に対する職員のスキルアップに繋がった。

エ 福祉サービス第三者評価の受審

平成28年度においても、提供するサービスを客観的に評価してもらうため、福祉サービス第三者評価を受けた。

評価に当たっては入居者へのヒアリングや家族と職員アンケートを行い、報告書が提出され概ね適正なサービスが提供されているとの評価であった。

職員の利用者への対応については、利用者及び家族からも高い評価を得るとともに、研修受講後の報告会を開催するなど、職員全体のレベルアップにつながる取り組みが評価された。

しかし、評価に即した変化が見える施設サービス計画については、さらなる改善が望まれた。

オ 外出機会の提供

外出活動については、年度当初に利用者と家族から外出におけるアンケートを実施し、あらかじめ個別の希望を把握するとともに、利用者の心身状態に見合うような外出先を検討した。利用者からのニーズの高い外食や買い物は、毎回好評であった。利用者の体調に留意しながらアクティビティを高める活動の一環とした。

また、恒例の利用者とその家族とのバスハイクは、10月12日（水）に品川水族館とNHKスタジオパークに出かけた。昼食は見晴らしのよいテラスのレストランで大きなエビフライを味わった。参加者は28人（利用者11人・家族8人・職員9人）であった。

(2) 実績報告（特養定員60人、ショート定員4人）

ア 年齢状況（特別養護老人ホーム）

入居者の平均年齢は87.9歳であり、前年度と比較して1.8歳下降した。

平成29年3月31日現在（単位：人）

	年齢別	男	女	計	構成比(%)
1	65歳未満	0	0	0	1.7
2	65～70歳未満	0	1	1	1.7
3	70～75歳未満	1	0	1	1.7
4	75～80歳未満	0	1	1	22.1
5	80～85歳未満	4	9	13	35.4
6	85～90歳未満	3	19	22	23.3
7	90～95歳未満	0	10	10	17.0
8	95～100歳未満	0	11	11	18.7
9	100歳以上	0	1	1	1.7
	合計	8	52	60	100.0
	最高年齢（歳）	88	103	—	—
	最低年齢（歳）	73	65	—	—
	平均年齢（歳）	81.9	88.9	87.9	—

イ 在籍期間（特別養護老人ホーム）

新規入居者は19人で、1年未満から～3年未満の利用者が前年度と比較して12.1ポイント上昇し、3～5年未満の層が8.6ポイント上昇した。

また、5～10年未満の層は16.3ポイント減少し、10年未満の層は16.3ポイント減少した。

平成29年3月31日現在（単位：人）

	期 間	男	女	計	構成比 (%)
1	1年未満	3	16	19	30.4
2	1～3年未満	1	16	17	28.8
3	3～5年未満	2	7	9	15.3
4	5～10年未満	2	8	10	17.0
5	10年以上	0	5	5	8.5
合 計		8	52	60	100.0

ウ 退所状況（特別養護老人ホーム）

退所者は、年間で18人であった。内訳は、下表のとおりである。

	性別	年齢	退所月	保険者	退所理由	在籍期間	要介護度
1	女	86	4月	調布市	長期入院加療	6年5か月	5
2	女	96	5月	調布市	入院先で死亡	6年 2か月	5
3	男	94	5月	調布市	長期入院加療	6年 6か月	5
4	女	75	5月	調布市	長期入院加療	11か月	5
5	女	87	6月	調布市	長期入院加療	16年 3か月	5
6	女	101	7月	調布市	入院先で死亡	3年 9か月	4
7	女	84	7月	調布市	長期入院加療	18年 7か月	5
8	女	93	8月	調布市	長期入院加療	6年 8か月	5
9	女	107	8月	調布市	長期入院加療	6年 3か月	4
10	女	94	10月	調布市	入院先で死亡	8年 6か月	5
11	女	92	10月	調布市	長期入院加療	3年	3
12	女	99	11月	調布市	長期入院加療	8年 8か月	5
13	男	100	11月	調布市	入院先で死亡	12年 9か月	5
14	男	94	11月	調布市	入院先で死亡	10年 9か月	5
15	男	100	12月	調布市	入院先で死亡	8年11か月	5
16	女	80	1月	調布市	長期入院加療	11か月	5
17	女	108	1月	調布市	長期入院加療	15年 1か月	5
18	女	97	3月	調布市	長期入院加療	2年 5か月	5
平均		94	—	—		7年11か月	4.8

エ 月別要介護度分布表（特別養護老人ホーム）

前年度と比較し、介護度2の利用者が5.3ポイント減少し、介護度3の利用者が1.9ポイント上昇している。介護度4、5の利用者が全体の85.3%で利用者の重度化が進んでいる。

(単位：人)

月	介護度1	介護度2	介護度3	介護度4	介護度5	平均介護度
4	0	2	8	23	27	4.3
5	0	2	8	22	28	4.3
6	0	1	9	21	29	4.3
7	0	1	9	21	29	4.3
8	0	0	9	23	28	4.3
9	0	0	9	21	30	4.4
10	0	0	8	23	29	4.4
11	0	0	8	25	27	4.3
12	0	0	8	24	28	4.3
1	0	0	8	24	28	4.3
2	0	0	8	25	27	4.3
3	0	0	8	25	27	4.3
構成比 (%)	0	0.8	13.9	38.5	46.8	4.3

オ 月別利用実績（特別養護老人ホーム）

年間の平均利用率は95.2%となり前年度に比べ1.3ポイント下降し目標利用率は達成できなかった。前年度の退所者は13人であったが、本年度も入退院の利用者が多く、退所者は18人と利用率の低下を余儀なくされた。

(空所利用を含まない。単位：日)

月	延べ利用日数	延べ利用可能日数	利用率 (%)
4	1,701	1,800	94.5
5	1,726	1,860	92.8
6	1,702	1,800	94.6
7	1,709	1,860	91.9
8	1,745	1,860	93.8
9	1,730	1,800	96.1
10	1,750	1,860	94.1
11	1,703	1,800	94.6
12	1,797	1,860	96.6
1	1,813	1,860	97.5

月	延べ利用日数	延べ利用可能日数	利用率 (%)
2	1,613	1,680	96.0
3	1,813	1,860	97.5
合計	20,802	21,840	—
平均	1,734	1,820	95.2

カ 短期入所生活介護（ショートステイ）月別利用実績

ショートの利用率については、目標の95%を達成することができなかった。入院や施設入所でキャンセルが多かった事が影響した。

(特養の空室利用を含む。)

月	利用実人数 (人)	利用延人数 (人)	利用日数 (日)	稼動日数 (日)	毎月の利用率 (%)
4	14	22	116	120	96.7
5	17	26	136	124	109.7
6	17	19	109	120	90.8
7	13	18	120	124	96.8
8	14	17	94	124	78.2
9	11	13	96	120	90.0
10	12	15	141	124	113.7
11	12	15	111	120	92.5
12	12	14	97	124	78.2
1	8	12	72	124	58.1
2	9	12	84	112	75.0
3	9	13	70	124	56.5
合計	148	196	1246	1,460	—
平均	12.3	16.3	103.8	121.6	85.3

キ 短期入所生活介護（ショートステイ）月別要介護度分布表

平均介護度が2.3から2.5と上昇している。要介護1、2の利用者が減少し、要介護3の利用者が47.1%と30.0ポイント上昇している。要介護4の利用者は2.9%で9.6ポイント減少、要介護5の方は8.6%と4.4ポイント上昇している。

(単位：人)

月	要支援 1	要支援 2	介護度 1	介護度 2	介護度 3	介護度 4	介護度 5	平均介護度
4	0	0	17	32	38	6	23	2.1
5	0	0	27	45	56	0	6	2.1

月	要支援 1	要支援 2	介護度 1	介護度 2	介護度 3	介護度 4	介護度 5	平均介護度
6	0	0	16	33	17	24	0	2.6
7	0	0	19	26	11	22	6	2.1
8	0	0	26	31	7	30	11	2.3
9	0	0	14	48	7	21	16	2.3
10	0	0	16	52	13	6	0	2.3
11	0	0	16	62	36	0	0	2.8
12	0	0	15	78	14	6	9	2.9
1	0	0	14	57	23	0	0	2.8
2	0	0	13	42	22	3	5	2.5
3	0	0	22	69	29	0	4	2.6
構成比率(%)	0	0	17.1	26.6	47.1	2.9	8.2	2.5

3 高齢者在宅サービスセンター

(1) 重点事項への取組み

ア 高齢者在宅サービスセンター（通所部門）

(ア) 各部門間における連携強化及び専門性の向上への取組

本年度は、デイサービス、地域包括支援センター及び居宅介護支援事業の三部門において、課内会議を定期開催し、各部門における動向及び介護保険制度等の変更点の対応、共有するケースの認識、サービス内容の再確認等を行い、担当する各職員が制度を利用するケースの全体像を捉え、サービスを提供できるよう取り組んだ。

また、本年度10月から調布市で開始された「介護予防・日常生活支援総合事業」の正確な理解を職員が共有し、十分な説明に努めることにより利用者に混乱を招かないよう徹底した。

(イ) 利用率の維持と収支の安定化への取組

本年度は、段階的な制度改正に伴う対応とともに利用率の維持を図るべく、家族（介護者）及び各関係機関との連携によりサービスの信頼強化に努め、前年度比、新規導入利用者6ポイントの増加を図ることができた。

また、新規利用者の定着にも注力し、29人が定着されたものの、サービス終結者が35人と例年になく多かったことや新たに開始された総合事業対象者の申し込みが少数であったこと、他の通所サービスとの共用や利用料負担増に伴う利用控えが多いことなど、経営目標には未達となり課題も多く残す結果となった。

なお、収支の安定化への取組については、短時間の臨時職員雇用等によ

る適切な職員配置や行事等に関する経費の見直しを行い、安定化に努めることができた。

(ウ) 通所系サービスにおける介護保険制度の対応とコンプライアンスの徹底への取組

本年度は、前年度からの懸案事項でもあった通所系サービスの再編に伴う各サービスの準備を行ってきたことにより、「調布市介護予防・日常生活支援総合事業国基準通所型サービス」への参入及び地域密着型通所介護の「運営推進会議の設置」等、関係法令及び運営体制の整備を適切に行い、円滑に遂行することができた。

特に、調布市総合事業国基準通所型サービスへの参入においては、対象者の把握とともに適切な関係機関との連携により事業対象者の円滑な移行を順次進められている。

また、運営推進会議においては、有識者や地域を代表する委員、家族からの要望等を含め、サービスの向上に寄与となる地域との連携を図ることができた。

なお、認知症対応型通所介護事業の祝日運営についてもサービスの提供内容や運営体制づくりの準備を行うとともに関連書類等の作成や整備を図り、次年度に向けてご利用される方々が安心して利用できる体制づくりに繋げることができた。

(エ) 通所系サービスのプログラム内容の充実と再構築への取組

通所系サービスの細分化が進む中で、給付それぞれの特性に伴うサービスの提供とともに利用者のモチベーションが低下することがないように、体操や趣味的活動を基本とするプログラムを提供するとともに、「八の日イベント」としてボランティアによる演奏会等を本年度12回実施し、地域との交流を図った。

また、年間行事においても、利用者に季節感や目標のある生活が提供できるよう努め、活気あふれるイベントの提供を図ることができた。

なお、認知症対応型通所介護においては、医療ニーズの高い認知症高齢者や家族へのケアが必要なケースの増加に伴い、その対応及び後期高齢化による認知症の進行防止等、集団活動の中においても個別化を図りつつ、看護及び介護による日々のケアに努めることができた。

再構築への取り組みについては、介護予防通所介護事業が、本年度10月から介護予防・日常生活支援総合事業へ移行され、当苑においても「調布市国基準通所型サービス」へ参入し、対象となる新規獲得にも努めたが、(イ)でも示した通り、対象者の申し込みが少数であり、今後についても、この傾向は続くと考察されることから、総合事業対象者向けのプログラム検討の開始

を行った。

イ 地域包括支援センター

- (ア) 総合事業の積極的な取組と認知症高齢者や家族への支援強化への取組
本年度10月から開始された「介護予防・日常生活支援総合事業」における地域包括支援センターの役割は大きなものであったが、大きな混乱なく移行することができており、引き続き、利用者の立場で適切なサービスが利用できるよう対応に努めていく。

また、認知症高齢者に対しては認知症連携会議等へ積極的に出席し、在宅サービスの関係者に限らず、医師会や薬剤師会、施設職員の声や現状を知る中で、関係機関との輪を広げながら認知症になっても暮らしやすい街づくりの一助を担うことができた。

- (イ) 地域包括支援センターの福祉介護における地域との連携強化への取組

地域包括ケアシステムの中核を担う機関である地域包括支援センター機能を地域へ広く周知するため、「地域ケア会議」や「みまもっと」を活用し、さらなる地域との連携強化に努めた。

また、地域の通報に対しては、迅速かつ適切な対応に努め、援助が必要な高齢者等の対応等、調布市高齢者支援室支援センター係と連携を取りながら、課題解決に向けて取り組むことができた。

なお、地域包括ケアシステムの構築に向け、地域ネットワークの中心的な役割が果たせるよう「地域ケア会議」や「ケアマネット」等を積極的に企画運営し、民生委員他、自治会やサロンからの代表者など地域の方々に多く出席してもらい、ケアマネージャーやヘルパーとの連携を図る機会とすることができた。

- (ウ) 福祉介護における総合相談窓口機能の充実と推進への取組

本年度においても、地域における総合相談窓口として信頼の高いものとなるよう、権利擁護及びケアマネジメント、認知症連携、ターミナル等における研修や地域との関わりに積極的に参加し、配置される各職員の専門性の強化に取り組んできた。

特に、地域との信頼強化に至っては、みまもっと活動担当者が主体となり地域を回る他、お祭りや会議の場に参加をお願いし、繰り返して地域包括支援センターのPRを行った。

その結果としても通報件数が増えており、同一通報に対し、複数通報が重なるなど、地域の見守り意識も高まっていると実感する。

ウ 居宅介護支援事業所

- (ア) 介護支援専門員の資質の向上への取組

利用者が望むその人らしい生活の実現の実践に向け、専門性の向上に努

めるため、「地域ケア会議」や「ケアマネット」に積極的に参加した。

また、隣接する地域包括支援センターと情報交換や収集、連携の強化に取り組み、介護サービスを必要とする高齢者に適切なケアマネジメントが提供できた。

なお、本年度8月に行われた調布市の現地指導において指摘された事項を中心に再度、ケアマネジメントの在り方を振り返り、質の高いケアマネジメントが提供できるよう業務進行表を作成し、法令順守の徹底及び利用者への還元が適切に行えるようマネジメントの見直しを行った。

(イ) 多様化する在宅ケアへの対応への取組

本年度の上半期においては、前年度からの継続プラン等安定したケアプラン数を維持することができたが、入退院に伴う医療ニーズのあるケースが引き続き多く見られ、医療・介護を切れ目なく提供するため、日常的に近隣の地域包括支援センターや医療機関等と連携・協働し、利用者本位のケアプランの作成に注力することができた。

また、多職種協働を常に意識し、家族をはじめとし、医療、介護、福祉の各関係機関との連携により終末期ケア及び入院、入所など様々な対応に繋げることができた。

(2) 実績報告

ア 通常規模型通所介護（介護予防通所介護を含む。）月別利用実績

本年度の年間利用率については、77.4%と前年度比12.3ポイント減となった。

特に、本年度は、死去による終結者11人、入院もしくは入所による終結者9人、その他8人と近年では最多となる計28人が終結となった。

また、新規利用者の確保に努め、要介護者24人、要支援者5人を導入するも、他サービスとの混合利用のため利用日が少なく、利用率への反映が困難な現状であった。

なお、年齢構成においては、要介護度者の平均年齢が87.2歳、要支援者の平均年齢86.3歳と前年度比約0.4歳上昇し、年々高齢化が進んでいる。

(単位：人)

月	利用延人数	送迎利用数	利用日数 (日)	利用率 (%)
---	-------	-------	-------------	---------

4	490	974	24	81.7
5	450	898	23	78.3
6	517	1,032	26	79.5
7	510	1,013	25	81.6
8	497	990	26	76.5
9	475	944	24	79.2
10	469	935	25	75.0
11	449	895	24	74.8
12	450	894	23	78.3
1	428	852	23	74.4
2	427	848	24	71.2
3	507	1,000	26	78.0
合計	5,669	11,275	293	77.4
1日平均	19.3	38.5		

イ 認知症対応型通所介護（介護予防認知症対応型通所介護を含む。）月別利用実績

本年度は新規7人、終結者9人で、年間利用率については、78.8%と前年度比0.3ポイント増となった。

また、本年度の傾向としても通所介護同様に死去もしくは入院、入所といった終結理由の方が約8割と終結者の多い年度ともなった一方で終結に至らなくても、入院者が入れ替わりに発生するような状態が継続し、利用率の向上に直結しない傾向でもあった。

なお、年齢においては、最年少69歳、最高齢100歳と幅があるものの平均年齢が88.2歳と平均寿命を越えた。

(単位：人)

月	利用延人数	送迎利用数	利用日数（日）	利用率（%）
4	237	460	24	82.3
5	236	468	23	85.5
6	257	512	26	82.4
7	234	465	25	78.0
8	250	496	26	80.1
9	229	453	24	79.5
10	219	436	25	73.0
11	220	439	24	76.4

月	利用延人数	送迎利用数	利用日数（日）	利用率（％）
1 2	212	422	23	76.8
1	203	398	23	73.6
2	210	414	24	72.9
3	265	516	26	84.9
合 計	2772	5479	293	78.8
1日平均	9.5	18.7		

ウ 認知症対応型通所介護事業運営推進会議の開催

認知症対応型通所介護は、地域密着型サービスのため、厚生労働省令で運営推進会議の設置が本年度より義務付けられた。

これは、地域との連携や施設の適切な運営を実現し、関係者からの要望、助言等を聞く機会を保障するために設置するものである。

概ね6か月に1回の開催が求められ、本年度の開催状況は、下記のとおりである。

	開催日	議 題
第1回	8月23日（火）	<ul style="list-style-type: none"> ・平成28年度上半期の運営報告及び重点的取組について ・利用状況について ・活動状況について
第2回	3月14日（火）	<ul style="list-style-type: none"> ・平成28年度下半期の運営報告及び重点的取組について ・利用状況について ・次年度活動予定について ・事故、ヒヤリハット等の報告について

運営推進会議の構成員については、下表のとおりである。（敬称省略）

氏 名	選任区分	任 期
新川 恵子	地域住民代表	平成28年4月1日～ 平成30年3月31日
片寄 あゆみ	調布市地域包括支援センター 一ゆうあい職員	
有本 キヨ子	地域有識者	

※ この他に、利用者及び利用者家族の出席もしくはアンケートを徴収している。

エ 通常規模型通所介護（介護予防通所介護及び総合事業を含む。）

月別要介護度分布表

本年度の平均要介護度は1.4介護度となり、0.02ポイント重度化し

た。

また、給付別延べ人数割合では、要介護者73.3%、要支援者26.7%で、新規利用者については82.7%が要介護者でもあった。

なお、要介護1及び2が60.6%を占めており、次年度もこの傾向が継続すると推察する。

(単位：人)

月	要支援1	要支援2	介護度1	介護度2	介護度3	介護度4	介護度5	合計
4	25	95	184	140	21	25	0	490
5	20	93	163	123	28	23	0	450
6	26	110	183	127	65	6	0	517
7	31	119	152	152	47	9	0	510
8	28	106	158	156	42	7	0	497
9	28	104	148	139	47	9	0	475
10	30	101	137	131	61	9	0	469
11	33	93	130	127	55	11	0	449
12	36	94	136	121	53	10	0	450
1	37	77	138	121	45	10	0	428
2	43	67	153	104	55	5	0	427
3	44	76	189	123	68	7	0	507
合計	381	1135	1871	1564	587	131	0	5669
比率	6.7%	20.0%	33.0%	27.6%	10.4%	2.3%	0.0%	
1日平均	1.3	3.9	6.4	5.3	2.0	0.5	0.0	19.4

オ 認知症対応型通所介護（介護予防認知症対応型通所介護を含む。）月別要介護度分布表

本年度の平均要介護度は2.38度と前年度比約0.2ポイント軽度化した。

この要因については、要介護3以上の高齢者が特養申込みできるようになり、在宅生活の継続が困難となった利用者の入れ替わりが多くあったことが一因と考察される。

また、当該事業利用者の年齢及び疾患に伴い、終末ケアに類似するケースも増加傾向にあることに加え、家族（介護者）の高齢者化も進んでいるため、介護力に不安を抱えるケースが増加している。

(単位：人)

月	要支援1	要支援2	介護度1	介護度2	介護度3	介護度4	介護度5	合計
---	------	------	------	------	------	------	------	----

4	0	0	70	42	96	22	7	237
5	0	0	72	38	101	19	6	236
6	0	0	64	41	109	33	10	257
7	0	0	57	80	81	7	9	234
8	0	0	66	65	95	14	10	250
9	0	0	53	67	89	13	7	229
10	3	0	41	59	92	16	8	219
11	4	0	56	57	79	16	8	220
12	0	0	48	54	86	16	8	212
1	0	0	60	52	72	8	11	203
2	0	0	64	65	56	11	14	210
3	0	0	56	72	110	14	13	265
合計	7	0	707	692	1066	189	111	2772
比率	0.3%	0.0%	25.5%	25.0%	38.5%	6.8%	4.0%	
1日平均	0.0	0.0	2.4	2.4	3.6	0.7	0.4	9.5

カ 支援センターの相談方法別件数

相談件数が昨年度比192件増となった。

特に、訪問相談については、相談内容が多岐にわたっていたことから、可能な限り、生活実態の把握ならびに居住環境の確認を行う必要性の高いケースが多く、次の対応に繋げていったことで、訪問相談が前年比95件と大幅に増加した。

(単位：件)

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
電話	191	149	183	170	169	161	145	173	194	184	196	218	2133	177.8
来苑	20	25	12	13	23	8	15	10	16	21	14	25	202	16.8
訪問	126	119	119	140	125	125	104	119	119	135	135	153	1519	126.6
その他	0	1	6	6	0	8	2	2	1	2	3	5	36	3.0
合計	337	294	320	329	317	302	266	304	330	342	348	401	3890	324.2

キ 地域包括支援センターの相談内容別件数

保健・医療及び介護保険、予防ケアプランに関する相談は、本年度も引き

続き増加傾向にあった。

また、本年度も一件の相談に対し、内容が複数あり多職種協働での対応となるケースが多くあった。

(単位：件)

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
保健・医療	117	91	102	98	117	93	84	95	92	91	99	123	1202	100.2
介護保険(居宅)	72	71	75	91	96	84	62	49	44	64	72	101	881	73.4
介護保険(施設)	11	7	5	9	10	16	10	5	2	5	13	18	111	9.3
予防ケアプラン	159	144	158	176	143	137	119	143	162	136	170	158	1805	150.4
介護相談	7	0	4	3	1	2	2	4	2	7	10	9	51	4.3
経済・住宅問題	10	3	4	9	7	7	4	6	7	10	8	16	91	7.6
その他	82	71	72	61	77	50	51	74	96	79	64	81	858	71.5
合計	458	387	420	447	451	389	332	376	405	392	436	506	4999	416.6

ク 地域包括支援センターの調布市一般施策相談件数

調布市一般施策に関する相談については、本年度も大きな変化は見られていないが、入退院等の相談に伴い、オムツに関する助成金や給付の相談が増加した。

(単位：件)

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
配食サービス	4	4	2	1	0	2	3	0	0	1	3	0	20	1.7
軽度生活援助	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
日常生活用具	3	1	4	7	6	2	2	3	6	1	3	7	45	3.8
通所入浴	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0.1
生活支援ショート	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
住宅改修	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
おむつの給付・助成	8	15	4	11	13	12	17	16	8	9	22	15	150	12.5
緊急通報システム	14	11	8	1	2	5	2	0	4	2	0	6	55	4.6
徘徊探知機	2	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	4	0.3
配食確認書	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	2	0.2
緊急対応	2	1	1	2	0	4	3	0	1	2	0	1	17	1.4
ケアマネ支援	13	7	10	6	6	10	2	3	3	3	12	7	82	6.8

その他	3	0	1	1	0	3	1	1	5	3	0	1	19	1.6
合計	49	39	30	30	28	39	30	24	27	21	40	38	395	32.9

ケ 地域包括支援センターの実態把握件数

実態把握件数については、前年度比37件の減少となったが、本年度も引き続き、実態把握を徹底し、適切なアセスメントの実施により必要なタイミングで必要な支援に繋がられるよう努めた。

(単位：件)

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
実態把握	65	79	93	83	66	57	70	71	79	86	74	90	913	76.1

コ 地域包括支援センターの見守りネットワーク連絡件数

通報件数については、前年度比16件増となったが、同一人物に対して複数人からの通報となるケースもあった。本年度も引き続き、個人情報等の取扱いに細心の注意を払い、通報に迅速な対応を行ってきたが、八雲台小学校地区協議会や児童民生委員、広報協力員等の協力やPRにより、地域の見守り意識が高まってきている。

(単位：件)

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
通報	5	1	4	4	3	1	5	2	6	7	4	4	46	3.8

サ 地域包括支援センターの予防プラン作成数

調布市では、昨年10月より総合事業が開始されたが、要支援認定を引き継いでの利用のため、本年度事業報告においては、予防プランとしてカウントした。

また、予防プラン作成件数は本年度も増加しており、委託作成により受入対応を柔軟化したいところでもあったが、要介護状態からの給付変更や認定以前からの関わり等により、委託ケースに繋がられない方が多く、直接作成が増えている。

(単位：件)

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
直接作成	123	122	123	124	123	122	121	123	128	130	124	128	1491	124.3
委託作成	19	17	18	17	18	21	22	24	34	27	27	26	270	22.5
合計	142	139	141	141	141	143	143	147	162	157	151	154	1761	146.8

シ 居宅介護支援事業所のケアプラン（居宅サービス計画）作成件数

本年度のケアプラン作成件数は、473件と前年度比23件増となったものの、本年度下半期においては、本年度の終結者14人の内8人が入院や永眠による終結となった。

また、新規作成件数については6件と少数であったものの、順次受け入れを実施し、目標プラン数の40件を作成することができた。

（単位：件）

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
国保連請求	39	39	40	41	43	43	42	41	37	36	35	37	473	39.4
請求外相談	0	2	3	1	1	1	1	1	1	2	2	4	19	1.6
合計	39	41	43	42	44	44	43	42	38	38	37	41	492	41.0

※ 請求外相談とは、新規や入院等で介護請求が発生しなかったケース。

ス 居宅介護支援事業所の要介護認定及び要支援認定調査件数

本年度の認定調査件数については、調査員が一人体制のため、前年度比1件減であったものの、調査依頼の対応は行えた。

（単位：件）

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
認定調査	1	1	1	0	0	1	0	1	1	0	1	1	8	0.7